

2025年度国際交流プログラム体験記（下）

8月10～18日 Global Student Leadership Program＝韓国・大邱保健大

「人の優しさ」に助けられ／英語力アップが目標に

海外「友だちに会える場所」に

リハビリテーション学科作業療法学専攻4年 菅 穂乃花さん



今回GSLP (Global Student Leadership Program) を通して特に学んだことは、「人の優しさ」と「私たちは同じ人である」ということです。これまで海外に行った経験がなかった私にとって、文化に由来する価値観の違い、言語の壁などの理由から外国に対して興味と同時に不安や恐怖を感じていました。このキャンプはそのような中始まりました。

韓国で初めて話したのは中国人のルームメイトでした。彼女は悪天候のため到着が遅れた私を気遣いパンをプレゼントしてくれました。その優しさが嬉しかったことをよく覚えています。翌日からキャンプが始まり、私は自分が英語を全く扱えないことを知りました。言葉が聞き取れない、自分の英語が正しいか分からぬという問題は想像以上に深刻なもので、不安は募る一方でした。そのような中、周囲の友だちは、分かりやすく言い換える、日本語を交えるなど様々な方法で助けてくれました。ときに、言葉だけでなく、生活面や娯楽面でも多くのサポートをしてくれました。このことから、人の優しさはどこに行つてもあるということを、身をもって知ることができ

ました。また、共に生活を送る中で、同じことを楽しみ、笑い、協力し、最後の別れを惜しむという経験は私たちが同じ人であるということを感じさせてくれました。GSLPを通して海外は「不安な場所」から「楽しみで溢れている場所」「友だちに会える場所」へと変化しました。

今後に活かしたいことはコミュニケーションにおける英語力の向上です。今回の英語で生活を送る中で、自分が知っている英語をコミュニケーションで使いこなせないことに気付きました。この気付きは私に「コミュニケーションのための英語を習得する」という目標を与えてくれました。今、私は友だちとの会話を楽しみ大切にするために英語力を向上させたいと思っています。また、今回与えてもらった優しさを次は他の誰かに返せる人になりたいです。人が何に困り、どんな助けを必要とし、何により笑顔になるのか、想像し自然と手を差し伸べるために必要な観察力や想像力を鍛えたいです。

最後に、今回関わってくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



研修の合間にBusan街を観光し、ビーチにも行きました。綺麗な海やおいしい食べ物を楽しみました。



最終日、順番に帰っていく友だちを見送りました。別れが惜しく、この出会いが私たち全員にとってかけがえのないものであり、「一期一会」という言葉の意味に改めて気づかされました

発表会に向け準備着々

学科を超えて、グループで力を合わせて発表に備えるチーム医療演習



チーム医療演習

教科書で症例を調べながら話し合う学生たち



パソコンに向かい発表用スライドを作成する学生たち



10月9日（木）から始まったチーム医療演習。4年次生353人は、11月6日（木）のプレゼンテーションに向けて、グループワークに取り組んでいます。

3回目となった10月23日（木）は、グループごとに興味のある点を出し合って、発表会に向けたプレゼン資料を作成する日。27グループの中のあるグループは、学科ごとに分かれ、教科書を片手に症例について話しあう学生たちの姿が見られました。医学検査学科は検査方法について、看護学科は患者の症状に焦点を当ててどう生活指導を行うべきかを協議し、リハビリーション学科は疾患を把握した上でどのようにリハビリを取り入れていくなど、それぞれの立場で学んできたことを出し合っていました。

学生たちが目指している医療職は、様々な職種の医療従事者が連携してケアを行う“チーム医療”が重要となります。学生たちも授業を通して「他職種連携の必要性を改めて感じた」「他の学科の凄さをはじめて知った」など、「チーム医療」の大切さを実感しているようです。（NL編集部）

決意新たに臨地実習へ

医学検査学科の臨地実習認定式が10月24日（金）に1300講義室で行われ、3年次生118人に適格認定書が授与されました。

認定書授与では全員の名前が読み上げられた後、学生を代表して青木成実さんが竹屋元裕学長より認定書を受け取りました。あいさつに立った竹屋学長は、「学んできた知識や技術を臨床の場で確認する大切な機会。これまでの学びを役立てほしい」と話し、「実習先の先輩方を自分たちのロールモデルだと考えて、コミュニケーションを心がけてください」と声をかけました。

引き続き、学生たちは「ヒポクラテスの誓い」を宣誓。全員が肃々と宣誓文を読み上げ、講義室は厳かな雰囲気に包まれました。最後に、上仲一義医学検査学科長が、2年半の学修と臨地実習前1か月の講義・実習を労った上で、臨地実習の意義と実習に際して心掛けておいてほしいことを伝え、「困った

医学検査学科3年に 適格認定書を授与

ことがあったら遠慮なく先生たちに相談してください。臨地実習を無事に終え、一回り大きくなった姿を見せてくれるのを楽しみにしています」と温かい言葉で学生たちを送り出しました。

医学検査学科3年次生は10月28日から約3か月間の実習を行っています。（NL編集部）



「ヒポクラテスの誓い」を唱和する医学検査学科の3年次生たち



健康・スポーツ
教育研究センター
レポート

実践を通じバイオメカニクス学ぶ 鹿本高生徒

熊本県立鹿本高校健康科学コースの2年生39人が10月21日（火）に来学しました。

この取り組みは、熊本県高等学校体育学科・コース連絡協議会との包括連携協定に基づくものです。「総合的な探求の学習」の一環としてバイオメカニクスを学ぶことを目的

としており、高校生は三次元動作解析装置を用いたジャンプ力の測定や筋力測定を行い、その結果をもとにディスカッションをしました。（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）



MD を覚えていますか？

気分転換は音楽を聴くことで、ほぼ毎日聴いています。今はYouTubeを利用していますが、子供のころはMD playerで聴いていました。CDをお店でレンタルするか、友達同士で貸し借りしてMDにダビングしていました。

そのMDが今年2月に販売終了したことを知り、中学2年の時に買ってもらったMD player=写真=を引っ張り出してみました。充電が完了し、わくわくしながら電源を入れましたが、残念ながら曲を再生することはできませんでした。とりあえず、昔ダビングした大量のMDのセットリストを確認して、YouTubeで動画を視聴しました。はまると同じ曲ばかり聞いていたので1000回以上聞いた曲もあるかもしれません。歌詞カードを見るとも口ずさめて、懐かしかったです。

しかし、いつでもどこでも、しかも無料で

懐かしい曲や最新の曲を聴けるなんて便利な世の中になったものです。時代が変わり昔流行った道具やお菓子がなくなっていくのは寂しいですが、次はどんなものが流行るのかなと考えるのも楽しみです。



インフォメーション

週間行事予定（11月4日～11月10日）

11/4（火）	高森高校マンガ制作完成記念感謝状贈呈式 インフルエンザ予防接種
11/6（木）	私の部屋でランチを チーム医療演習 発表会
11/9（日）	第27回熊本県理学療法士学会（本学にて開催）